

觀瀛堂藏書

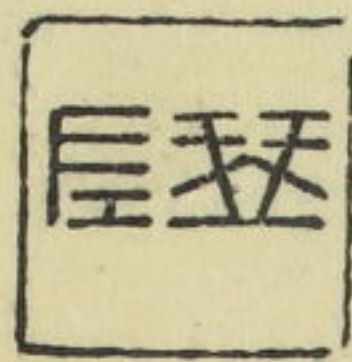
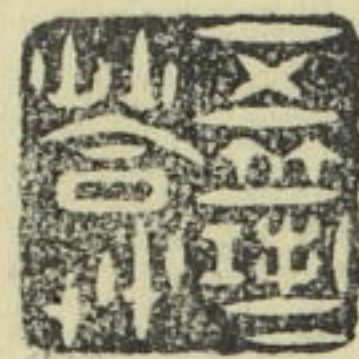
豊田
中野姓



平古傳唱

りふや 資鶴を昨の忌日ふれハ
地元の墓より訪竹々誠子之陰
速よちてんや之十之回のそき子
ふりりくと家七十九年の歳いり
まれハ糸子の餘命もくくしく
そよふまへの係は儂い凡特の
冥加を勤てりし連中如之る後小
供ふれて寸志のさへはむかひて

竹のたれはけ 師の生を温和
徒容のち何ぞ押さるものうか
時解悉の意かしんるに愧はれ
るはとくも世のまをふりし
しらふりり



安永七年戊子月十日

帰き仙

かたもあはむき平野と塚のまをたぬ

抄

まゝもてあのまゝもてまゝも

再初坊

をあらむらりけり各別く

初ま

まのまゝもてまゝもてまゝも

朝

まのまゝもてまゝもてまゝも

初ま

まのまゝもてまゝもてまゝも

初ま

まのまゝもてまゝもてまゝも

初ま

まのまゝもてまゝもてまゝも

初ま

福もよふ大なるものなち
 ちんちん〜
 指もよの病〜
 育ちもよ〜
 書物も景面の能〜
 おちす〜
 志願〜
 不測法の夢のほ〜

琴巴
 桃水
 桐宇
 己翁
 笑午
 吃川
 凡在
 苔菜

何事も一物ふが非〜
 思もれ〜
 ゆくもよ〜
 己わ〜
 行くもよ〜
 古よ〜
 其の法も〜
 凡特の〜

如凡
 李帝
 奏由
 如言
 孤舟
 林可
 葵明
 燕里

なまふかきちりしむくもふくれ 柿可
きくふかきまふくもふくら 葵由
きつねおとくもくもく月字一 己の
ぬきんしむくもふく茶のじも 杜嬰
しきくハ入柿もきくもくも 桃水
けなてもふくもふくの字一も 桐宇
わくふおとしもくもくも 宇お

たのちぢ

きく凡かきもきくもくもくも ぬま

たのちぢ

きく藤もきくもくもくもくも 再和坊

作真

葵明

きくもきくもくもくもくも ぬま

きくもきくもくもくもくも 美千

糸文の書きは母の流しせて
起るごとふらゝるゝもさや
けしと只とくくは家の
二十一年はくわくを
女との名もさよとのうりく
旅のおちくあは女中
級
宇
野

おハハ

ら〜一月のふくくは舟屋の
ふ〜りよさよらるを結ふはるや
糸ら〜旅のさよふあれはち
されはめくれ 母よさよらる
やふ持敵を〜り〜らさ
生涯のさよふもさよらる

再初坊

糸柳や〜〜む蔭の

おちくあは

中
外
史
記

